

令和6年度 宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校 自己評価書（附属中）

4段階評価 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

【教育目標】「未来を切り拓く強い意志、高い知性、豊かな人間性をもつ人材を育成する」								
重点目標	評価項目	計画(P)	実践(D)	評定(C)	改善(A)	学校関係者評価		
		評価指標	方策・手立て	学校自己評価	総合	組織の考察、分析及び改善策等	評定	評価コメント
生徒一人一人の学力を最大限に伸ばし、進路実現を図る。	学力向上と進路支援の充実	①教師が授業力を磨く。	○全職員が県教育委員会による支援校訪問において、研究授業を1回以上行う。 ○学習内容に応じてICTを活用した教育活動を適宜実施する。	3	3.2	【基礎・基本の定着と学力向上】 ①重点支援校訪問において、全職員が1回の研究授業を行った。また、高校職員も含めた教職員同士が日常的に情報交換を行い、ICTを活用した授業を計画的に実施することができた。 ②家庭学習時間調査を定期的に行い指導に生かした。目標の宅習時間を下回る学年もあった。今後は、清泉会の取組と連動させ、自主的な学習の充実を図る。 ③総合的な学習の時間を中心、全職員で指導に当たったことで、生徒全員が年度末の自然科学探究発表会で充実した発表を行うことができた。また、科学の甲子園ジュニア全国大会での6位入賞や作文コンクールでの全国2席、英語弁論大会での全国大会出場など、全国・県レベルでの表彰を多く受けた。 また、読書活動においては、朝の思索の時間(10分間)の充実に努めた。教職員も支援しながら日々の取組を定着させていく。 【進路支援の充実】 ④総合的な学習の時間(キャリア探究)において、企業病院探訪等、キャリア教育に係る教育活動を各学年で年1回以上実施する。	3.4	・各項目において適切な努力目標を設定し、十分な成果が得られていると感じた。一方で、中学生という時期に学習習慣を確立させることができた今後の課題だと思う。 ・全国レベルの評価を頑張りており素晴らしいと思う。 ・生徒が数多くの表彰を受けており素晴らしい成果だと思う。 ・教師が授業力を磨くことは大切であるが、生徒にはいろいろな情報を提供して、各自が興味をもつ事項や職業などを考える環境をつくるべきと思う。自宅学習に関しては強く押し進めなくてもよいのではと思う。
		②学習習慣を確立させる。	○各教科において家庭学習の在り方を適宜指導し、学期1回行う宅習時間調査において、週当たりの宅習時間を1、2年1080分以上、3年1200分以上を目指す。	2				
		③探究活動や読書活動を推進する。	○全ての生徒が自分の研究テーマに沿った論文をまとめることができるよう、総合的な学習の時間(自然科学探究)での生徒への指導・支援の充実を図る。 ○校外のコンクール等に出演・入賞できるよう、指導の充実を図る。 ○読書活動について、思索の時間の充実を目指し、文化清泉会の取組に対する指導・支援を行う。	4				
		④キャリア教育を充実させる。	○総合的な学習の時間(キャリア探究)において、企業病院探訪等、キャリア教育に係る教育活動を各学年で年1回以上実施する。	3				
		⑤学力に応じた個別指導、補充指導を充実させる。	○各教科の個別指導、補充指導の充実を図るため、SETを月1回以上実施する。	4				
		⑥学力検討会・判定会を充実させる。	○中学校企画会において生徒の学力に係る情報交換を月1回以上行い、全職員での共通理解・共通実践へつなげる。	3				
人権感覚を養い、豊かな心を育む。	生徒支援の充実と人権教育等の推進	①職員の共通理解と共通実践を図る。	○中学校企画会において生徒指導に係る情報交換を月1回以上行い、全職員での共通理解・共通実践へつなげる。	3	3.2	【規範意識の向上と生徒支援】 ①週1回以上の情報交換を行い、学習や生徒指導に係る共通理解を図ることができた。また、ケース会議を適時実施することができた。 ②担当職員の指導のもと、清泉会を中心に生徒主体の取組を充実させたことで、自主的に活動する生徒が増えた。 ③清泉会(生徒会)や集会等で、生徒が企画・運営する活動等の機会を増やしたこと、主体性のある生徒が増えてきた。また、清泉会執行部以外の生徒も積極的に活動することができた。 ④清掃徹底週間を設定し取組を充実させたことで、時間いっぱい清掃に取り組む生徒が増えた。 【道徳・人権教育・食育・健康安全教育の推進】 ⑤学級担任による週1回の道徳の授業を計画的に実施することができ、夏休み前に情報モラル学習を実施した。また、いじめに関するアンケートを年間で6回実施することができた。また、夏季休業や冬季休業中に全員対象や希望者対象の面談を実施することができた。 さらに、今年度は、文部科学省「人権教育研究指定事業」における指定を受け、清泉会による「いのちの授業」を実施したり、「全国拉致問題子供サミット」や「全国いじめ問題こどもサミット」に代表生徒が参加して、本校生徒に向けての報告会を実施した。 ⑥3月に「弁当の日」を実施し、それぞれの生徒の実態に応じた取組を実施することができた。	3.4	・各項目において適切な努力目標を設定し、十分な成果が得られていると感じた。 ・清泉会の企画運営を全学年により活性化し、社会人としての基礎的なことを学び、この活動を通じて相手を尊重することを自覚させたい。
		②挨拶を励行し規律を守る、素直で爽やかな生徒を育てる。	○生活清泉会が中心となって取り組む挨拶を推進する活動が充実するよう、指導・支援を行う。	3				
		③自主性・積極性のある生徒を育てる。	○様々な教育活動において、生徒が主体的に活動する場を意図的に設定し、状況に応じた指導・支援を行う。	3				
		④環境美化意識の高揚を図る。	○清掃徹底週間を学期1回設定し、指導の徹底を図る。	3				
		⑤道徳教育・人権教育・特別支援教育、教育相談を充実させる。	○道徳の時間を年間35時間確保する。 ○SNSによる人権問題等を未然に防止するため、全年学を対象とした情報モラル学習を年1回以上実施する。 ○いじめに関するアンケートで生徒の状況を把握し、教育相談を実施する時間で確保する。	4				
		⑥食育と健康安全教育を推進する。	○食育の推進を目的として、「弁当の日」を年1回実施する。 ○健康安全教育について、交通安全・生活安全・災害安全に係る教育活動を年1回以上実施する。	3				
文武両道を推進する。	文武両道の推進	①「文武両道」の「文」は勉強、「武」の部活動の他、生徒会活動やボランティア活動等も含めて考える。	○勉強と部活動等の両立ができるよう、生徒が毎日提出する生活の記録や宅習時間調査を活用し、生徒個々に応じた指導・支援を適宜行う。	3	3.0	①生活の記録や宅習時間調査の状況を全職員で共通理解し、SETを中心に個に応じた指導を行なうことができた。 ②行事や清泉会活動において、活動の場を計画的に設定することができた。 ③1年生入学時に部活動担当職員によるオリエンテーションを実施することができた。 ④部活動に所属している生徒の割合が85%という加入率である。加入していない生徒には、陸上や水泳等の他、百人一首やピアノに励んでいる生徒もいることから、部活動の見直しを行い、これまで以上に部活動選択の幅を広げることができるように検討している。	3.2	・各項目において適切な努力目標を設定し、十分な成果が得られていると感じた。 ・文武両道に優れた人が完成した人となることが多い。学び、運動することの重要性を訴えた。
		②学校行事へ積極的に参加させる。	○中学校単独行事、中高合同行事において、生徒が主体的に活動できるよう、場の設定及び指導・支援の充実を図る。	3				
		③生徒会活動を活性化させる。	○清泉会集会等の集会活動や各係の常時活動など、生徒が主体的に活動を行うよう、指導・支援の充実を図る。	3				
		④部活動を充実させる。	○部活動の意義等を理解させるオリエンテーションを実施し、生徒の85%以上の部活動加入を目指す。	3				
広報活動を充実させる。	広報活動の充実	①オープンスクールの工夫・改善を図る。	○学校説明会を年2回実施し、事後アンケートにおいて「満足」との回答の割合を90%以上を目指す。	3	3.3	①学校説明会を2回実施することができた。魅力開発部と中学校職員が連携し、生徒主体の説明や施設見学を行い、多くの参加者から好評を得た。 ②学校案内を作成し、地域内の小学校や学習塾等に配付するとともに、ホームページでも紹介することで、本校の特色の周知に努めた。また、ホームページをほぼ毎日更新し、昨年度1年間の総アクセス数を上回ることができた。(1日約1600アクセス) [R5.11.2に1,000,000アクセス] R7.2.6現在のアクセスカウンタは1,741,703] また、パンフレットの見直しを行い、リニューアルを図った。 ③教頭を中心地域内の全小学校と、地域の学習塾を訪問し、本校の学校説明を行うことができた。	3.6	・各項目において適切な努力目標を設定し、十分な成果が得られていると感じた。目玉となるイベントを積極的に発信していくと良いと思った。 ・中学の行事などを通して対社会に向けての広報活動をより積極的に行う。中学について、入学定数を倍増してほしい。2クラスへと希望する。
		②ホームページ、広報誌、パンフレット等を充実させる。	○ホームページを週2回以上更新し、地域・保護者への情報提供に努める。 ○学校案内パンフレットについて、紙媒体とともにデジタル版を作成し、ホームページに年間を通して掲載する。	4				
		③積極的に小学校を訪問しPR活動を行う。	○北諸県地区の全小学校及び西諸県地区の希望する学校を対象とした小学校訪問を6~7月の間に各1回実施する。	3				